



目次

- 1. 合同研修報告
  - 災害研修
  - 管理者育成研修
- 2. 新人の成長日記  
～4病院の新人看護師～
- 3. 研修シート 最終評価

編集後記

研修新聞は、年に4回発行しています。ファンネルにもUPしています。バックナンバーも閲覧できます。中央中央病院HP「看護部」-研修-教育・キャリア開発-愛媛県立病院看護職員研修新聞-で閲覧することができます。



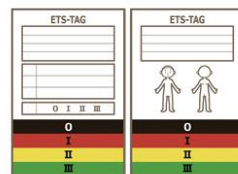
## 1. 合同研修報告

公開研修 災害研修 令和4年12月8日・9日開催

キーワードは**CSCATTT**  
指揮命令-安全-情報伝達-評価-トリアージ-処置-搬送



トリアージの目的  
正しい患者を  
正しい場所へ  
正しい時間に  
篩分け、選別すること  
1次トリアージ《迅速》→  
2次トリアージへ《精度UP》



南海トラフ発生  
に備えて!

「CSCATTTや、自分を被災者であるということを再確認しました。机上の演習も「こうしたら良い」と知識が増えました。メンタルヘルスケアも、患者のことだけでなく自分・スタッフについても注意したいです」「トリアージの内容、メンタルヘルスケアなど普段自分が行っている看護に含まれている内容だと気づかされました。もっとそこをイメージして意識していけるように頑張りたいです。」「平常時からの準備、シミュレーション・訓練の必要性を改めて考えることができました。2日間とても学びの多い研修でした」



管理者育成研修 令和5年1月12・13日開催  
第1日目看護長+次席第1班 第2日目次席第2班



勝原裕美子先生、講義の冒頭で・・・  
『コロナ禍の倫理課題について「看護管理」に掲載している。初期、医療従事者に対する偏見があった。物資・人員不足対応もはっきりしないなど大変な状況であったと思う。立場上、客観的に聞いた。このことを現場の事を考え投稿した。この間、自分たちが出来たことに目を向けて欲しい。毎日立ち

止まる間もない状況であったと思うが、これを参考にして振り返ってもらいたい。出来ていることがあるからこそ今がある。自分の出来ていることを立ち止まって考えてほしい。この状況で研修が出来ることは、研修で何か感じるものがあるからである。それぞれの事例を解いていく、誰のどんな倫理問題であるのか、タイトルを付けるとすると何なのか、当事者の立場に立った時何を大事にしたのか、それが道徳的要求・価値観という。』看護管理33巻1号2023年1月 pp12-18 コロナ禍での看護管理者への支援から見てきた倫理的組織運営とは一経験を今後につなげるために一 勝原裕美子

## 2. 新人看護師の成長日記



### 新居浜病院 新人看護師成長記録



退院後の生活を見据えて行動することができるようになりました。コミュニケーションを通して患者の思いを読み取り、多職種間で情報共有することが大切だと学びました。患者の価値観を大切にしたい看護が実践できるように頑張りたいです。

インシデントを通して知識や確認の重要性に気づきました。同じことを繰り返さないように、アセスメント能力の向上を目標に、学習に取り組んでいます。「患者に対して思いやりのある看護」ができるように、コミュニケーション能力を身につけ、2年目も頑張ります。



新人ローテーション研修



多重課題研修



急変時の対応研修

令和5年2月16日、新人IV期研修を開催しました。新人11名が一年を通して一番印象に残った看護場面を振り返り、発表しました。「成功したこと」「失敗したこと」から学び、それぞれの看護観に繋がる振り返りができ、一年間の成長を感じられる研修になりました。人前で発表する姿からは緊張感が伺えましたが、自分の学びを自信を持って発表する姿に、参加した各部署の看護長からも賞賛のコメントがあり、とても感動的な研修となりました。看護部長から一人ひとりに対しアドバイスを頂き、新人看護師の自信に繋がる良い機会となりました。また、4回目の新人会では、日々の振り返りシートを活用し、社会人基礎力と結び付けたディスカッションを行い、次年度の課題や目標を明確にすることができました。今年度の経験を力にして2年目も更なる成長を遂げることを期待しています。



新人

エルダー

**エルダー：**1年を振り返ってみてどうだったですか？

**新人：**患者さんと関わりながら、業務も覚えていかないといけないので大変でした。患者さんから日々感謝を伝えてもらえる時に、ああ看護師やってよかったなと思います。

**エルダー：**慣れない土地で仕事するのは苦労することも多かったのではないですか？

**新人：**最初は不安も多かったけど、先輩や同期と休日を過ごしたりして、慣れるのも早かったと思います。同期とは男女問わず、仲が良いですね。

**エルダー：**脳外科看護で、難しかったことはありますか？

**新人：**コミュニケーションが一番難しかったです。処置でも麻痺側に注意しながら処置しないといけないので、そこも難しかったです。

**エルダー：**看護技術に関してはどうでした？

**新人：**積極的に入らせてもらって早い段階で自立できたと思います。エルダー制度なので、先輩にたくさんフォローしてもらいました。

**エルダー：**最初に患者さんの受け持ち看護師になった時は、どうでしたか？

**新人：**先輩にフォローしてもらいながら、できる限りの看護ができたと思います。

**エルダー：**患者さんにどうなってもらいたいですか？

**新人：**一番は笑顔で退院してもらいたいです。ADLが回復して、元の生活に戻れるようになってほしいです。

**エルダー：**今後の目標を教えてください。

**新人：**身に付けてきた技術をレベルアップできるように学習を続けて、患者さんに対して失礼のないように接していきたいです。



- ①入職当初に思い描いていた目指す看護師像
- ②研修や現場教育で成長した自分自身の変化について聞きました。



〈透析室〉

- ①患者さんに寄り添う看護師
- ②入職当初、透析室という特殊な環境と知らないことばかりで不安が募り、患者さんとの関わりに自信が持てませんでした。しかし、日々先輩方に支えられながら一緒に患者さんに関わることで、スムーズに会話を交わせるようになり、じっくり話を傾聴することができています。また、医療機器に苦手意識があり、血液回路を見ても最初は理解ができませんでした。指導で学んだこと、練習、実践を繰り返したことで、今では指導のもと、自信を持って透析の開始、終了操作を行うことができるようになりました。



〈感染症病棟〉

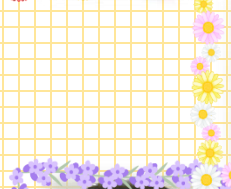
- ①患者さんに安心感を与えられる看護師
- ②入職当初は緊張してしまい、患者さんに届かないような小さい声でした。毎日患者さんのケア中に先輩方の声かけと私の声かけで患者さんの反応や言動が違うことに気づきました。患者さんに安心していただくためには優しくわかりやすい声かけが大切であり、さらには今からどこに触れるのか、どういったケアを行うのか、といった具体的な声かけを心がけるようになりました。今後は患者さんだけでなく、家族の方にも安心していただけるよう、コミュニケーションスキルを伸ばしていきたいです。



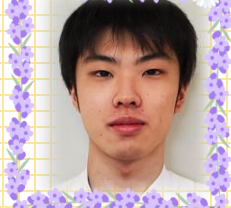




入社してもうすぐ1年が経とうとしています。通常の内視鏡検査のほか大腸ポリープ切除や超音波を使った特殊な処置・介助など、少しずつ出来ることが増えてきました。自分が行う看護に日々悩みますが、患者さんから“あなたが検査についてくれて良かった”と言ってもらえた時は本当に嬉しかったです。患者さんからいただいた言葉を励みにしてこれからも頑張りたいです。

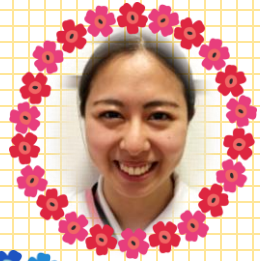


配属当初は、初めての事が多く不安でした。しかし、先輩方の手厚いフォローのおかげで様々な診療科の手術の器械出しを行えるようになりました。患者さんと関わる時間は少ないですが患者さんの立場になって考え、安心感を与えることができるような関わりをすることを心掛けています。安全な手術看護が提供できるようにこれからも学習を継続していきます。

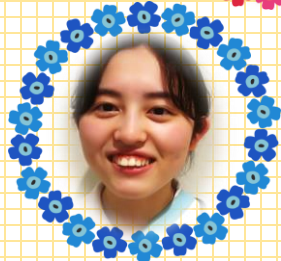


私が入社して出来るようになったことは、「患者さん状況に合わせ、優先度を考えながら報告やスケジュールを考えること」です。実際に患者さんを担当すると優先度を考えて行動することに加え、1人では対応できない場合にはヘルプサインを出すことや、その後のスケジュールの修正が必要になることもあります。患者さんの状態は刻々と変化することを日々実感しながら患者を担当しています。今後もフィジカルアセスメントを大切にして患者さんに関わっていこうと思います。

入社して早くも1年。看護師として、人として学びを得る日々です。産科病棟の配属となり、1番に力を入れたことは出生直後の新生児の蘇生処置です。先輩との1例1例の振り返りで、NCPRに沿った処置を確実に行うことができました。また、予定帝王切開のベビーキャッチは一人で行うことができるようになり、先輩と一緒に分娩介助も経験しています。分娩介助は母と子2人分の命を預かるため緊張することも多いです。出産という貴重な瞬間に立ち会えることに、やりがいを感じています。



できることが徐々に増えていき充実を感じた一方で、社会人・看護師としても日々新しいことの積み重ねで学ぶことも多く知識・技術不足を痛感した一年でした。自分が行う全てのことに伴う責任の重さや教科書通りにならないことへのギャップに悩むこともありましたが、先輩方の丁寧な指導のおかげで少しずつ乗り越えることができました。課題はまだありますが自分の中で看護の在り方を確認しながら継続学習に努めています。



初めは、新しい環境や仕事に慣れることに必死の毎日でした。また、自分の理想と現実が異なり、時間通りに進まず焦って失敗することもありましたが、少しずつ仕事にも慣れ患者さんとのコミュニケーションを図れるようになったことで、患者さんから感謝の言葉を頂けることもあります。日々指導して下さる先輩方やエルダー、同期の支えがあって乗り越えられた1年だったと思います。患者さんの小さな変化を逃さないよう日々の関わりを大切にしながら、自分の目指す看護師像に向けて頑張っていきたいです。



### 3. 研修シート 最終評価

研修シートは研修参加目的—学び—行動目標—実践—評価の一連の流れとなっています。研修後の学びを部署で実践し、「あなたやあなたの周囲の変化」を記入します。その変化が自分の成長です。研修目的・目標と自分の立てた行動目標に照らし合わせ最終評価を行います。1年間の振り返りから、次のステップへ！

#### 編集後記：

令和4年度最終号では、「新人看護師の成長日記」を特集しました。各病院の取り組みや、新人さんのコメント、笑顔の写真をみるとそれぞれの成長が感じられとても嬉しく思います。共に学び共に成長して、私たち一人ひとりが看護師としてキャリアを積んでいきましょう。  
(嶋屋)

愛媛県立病院看護職員  
研修新聞 第18巻第3号  
2022年 12月発行  
連絡先：愛媛県立中央病院  
合同研修担当看護長  
嶋屋順子  
電話：089-947-1111 (代表)

